

ワクワク体験

～ほんそごスクール 2019～（地域のグループが「先生」に）

出雲市 国富コミュニティセンター

1 国富地区の概要

国富地区は、出雲市の北東部の斐伊川流域に広がる沖積平野と旅伏山麓を含む東西約4.8キロメートル、南北約4.6キロメートルの地区で、6大字、56町内に、2,909人、937世帯（2019年12月末現在）が住んでいる。

国指定文化財(史跡)の「上島古墳」と「中村古墳」があり、太古から歴史を刻む地である。

旅伏山の東の麓にある木佐家敷地内に祀られた「要石（かなめいし）大神」と呼ばれる6つの石は、出雲の「国引き」神話において、出雲の国をつなぎ留めた杭だったとされ、この地を「国留（くにどめ）村」としたことが、「国富（くにどみ）」の地区名の由来とされている。

2 事業の趣旨

(1) 現状・課題

核家族化の中、学校と家庭を往復する子ども達は、地域の多世代の「人」や、「もの」との出会いが少なくなっている。

また、地域の間人関係の希薄化が危惧される中、コミュニティセンター事業においても参加者の固定化、高齢化が進み、活動の中止、縮小がみられるようになった。

(2) 目的

人との出会いを含めた多様な経験を通じ、地域で国富のかわいい子ども達「ほんそご」を育てる取組を実践する。

この中で、これからの地域活動に積極的に関わる人づくりと、人が集うセンターづくりを進め、子どもを核につながる、幸せあふれる地域づくりを目指す。

3 具体的な取組内容

(1) 昨年度の「ほんそごサマースクール」

昨年度の夏休み、子どもたちに時間を有意義に過ごしてほしい、さまざまな本物体験をしてほしいという思いで、10日間の「ほんそごサマースクール」を試行した。

スタッフ反省会において、次はこうしようという前向きな話し合いが始まったことから、今年度は、より多くの参画を得て、多くの学びのある通年の事業にチャレンジすることとなった。

(2) 地域のグループが先生に！

「ほんそごスクール」では、地域のサークルや活動グループが、体験授業を一コマずつ受け持つ。

気心知れたメンバーが、子どもの体験授業を運営するというテーマを担い、得意なことや、話し合いで決めたメニューにより、グループ間の調整も図りながら、一コマを組み立てていく。

子どもたちは、いつしかスタッフのことを「先生」と呼ぶようになり、学校とは違う開放感と好奇心を抱く中、時に騒いで叱られたりしながら、多くの大人と交わる。

		～スケジュール～			
		4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
ほんそごスクール	地域イベント			ふれあい文化祭 11/9・10	
	たぶっさんに登ろう	新つき 登山 4/29			
	サツマイモ栽培	田植え 5月中旬		収穫祭	
	笹巻き	笹巻き			
	サマースクール		6日間		
	そば祭		稲刈り	収穫祭	
	しめ縄づくり	田植え	稲刈り	しめ縄作り	
	ニュースポーツ				ニュースポーツ
	七草粥				七草粥
	ひなまつり				ひな祭り

(3) 四季を感じる体験授業

今年度のもう一つのテーマが、四季を通じた体験授業。栽培体験は、子どもたちが遠ざかりつつある季節感や、収穫の喜びを感じてくれるものとなった。

① サツマイモ栽培

5月25日(土) 畑作り、苗植え体験

9月24日(火) 収穫体験

11月2日(土) 焼き芋パーティー



「あっつ、あっつ、おいしい」

② しめ縄づくり

5月18日(土) 田植え体験

10月5日(土) 稲刈り体験

12月21日(土) しめ縄づくり



「こうすると、稲を留められえよ」

③ そば祭り

8月9日(金) 種まき体験

10月5日(土) 刈り取り体験

11月30日(土) そば打ち体験



「もう少し左手を前にするといいよ」

④ サマースクール

7月23日(火) ~28日(日)



4 評価と成果

(1) 子どもたち「ほんそご」にとって

学校ではない空間での多様な体験、また、地域の大人との継続的な関わりを通じて、積極性、社会性を身に付け、成長が感じられた。また、国富の人、地域をさらに好きになってくれたと思う。

(2) 地域のグループ「先生」にとって

地域のグループメンバーの多くから、事業に参加して元気をもたらしたという意見が寄せられた。これまでは、各自の活動のために集うグループだったが、子どもに向き合う中で、地域に積極的に関わる人づくりを進めることができた。

また、グループ間の連携、交流が図られたことにより、顔がみえる地域づくりが進み、地域の連帯意識が高まった。コミュニティセンターや地域活動への参加者も増えている。

その結果、地域への愛着を持って、国富のかわいい子「ほんそご」を、時に厳しく、時にやさしく見守り、育むことができる地域づくりの一步を踏み出せた。

5 今後の課題と見通し

子どもの成長を見守る活動を担う中で、地域内に緩やかなネットワークづくりを目指す。子どもたちの変わっていく姿は、関わる人の暮らしを心豊かに充実させ、「次も」「明日も」「来年も」という意識を生み、活力ある地域づくりにつながるものだと感じている。

(文責：センター長 三代 雅之)